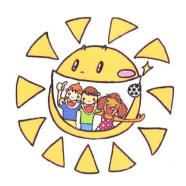
KOBE KODOMO NIKONIKOKAI NEWS

こうべ子どもにこにこ会 ニュース

第4号 2008年3月発行



〒658-0022

神戸市東灘区深江南町 4-12-20-201 TEL&FAX 078(453)7440 Kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp http://www.hyogo-ip.or.jp/nikoniko





- ●ごあいさつ
- ●活動報告 〈日本語・教科教室〉 〈スペイン語母語支援教室〉
- ●その他の活動報告
- ●フォーカス
- ●声
- ●情報
- ●会員募集
- ●編集後記

【ごあいさつ】

寒さ厳しい冬もやっと終りを告げ、桜咲き誇る季節になりました。新たな年が始まり、子どもたちの学年 が一つ上がりました。いつも間近に接していると、子どもたちの成長に意外と気がつきにくいですが、一 年を振り返ると子どもたちが大きく変化し成長していることを感じます。日本に来たばかりで日本語が わからずほとんど発話しなかった子どもは、今ではボランティアと大きな声で冗談を言って笑いあって います。進学を控えて面接の準備を頑張っていた生徒は、日本語で自分の意思を伝えることの大切さに 気がついたようです。

様々な国籍の子どもたちが集まる当会では、それぞれの子どもに対する支援内容も多様でボランティアは 年間プランを苦労して立ててくれています。しかし、子どもたちの成長を感じた時、その苦労も喜びに かわるだろうと信じています。今後も皆様の温かい支援のもとこうべ子どもにこにこ会が子どもたちの 成長の一助となることを希望しています。

中島永倫子



1

日本語・教科教室

日時 毎週木・土16:00~18:00

場所 本庄地域福祉センター

現在、子ども15名(ブラジル、フィリピン、中国、ペルー、韓国、イスラエル/日本、トルコ…7カ国)、ボランティア22名で活動をしています。

この3月に1名が中学卒業と共に、にこにこ会を卒業しました。また2名が小学校を卒業し、中学校という新たなステージへと前進します。それぞれが新たな学年をむかえることができるようになったことは自信になり、これからも新たなことにチャレンジ出来るようにサポートしていきたいと考えています。

四名の学生ボランティアが大学をご卒業されて、3月に活動を終えられました。春からは、また新たなボランティアの方々と一緒に活動をできることを願っています。

2007年度は『にこにこの部屋』で私達と共に活動をしてくださった竹山さんにも多大なるご協力をいただきました。この一年間は、新しい子どもがたくさん増えました。キャンプやお楽しみ会など、保護者の方にも参加していただいた行事も多く、ご協力に感謝しています。来年度もよりよいサポート体制を目指し、頑張ります。

●お楽しみ会(クリスマス会)2007年12月15日(土)

いつも勉強をしている教室で、お楽しみ会(クリスマス会)を実施しました。

毎年、年末最後のクラスは子どもや保護者、ボランティアが一堂に集まり「今年も一年お疲れさま!」という意味を込めてお楽しみ会を開催しています。

今回は、保護者やボランティアが持参下さった料理が机いっぱいに並び、子どもたちは大喜びでお腹がいっぱいになるまで多国籍の料理を楽しみました。

その後ゲーム大会を実施し、日頃日本語教室で勉強している知識を振り絞って一生懸命答えていました。 最後は恒例のクリスマスプレゼント交換!今年はクイズでの正解率によって、プレゼントを選ぶ順番を決め大小さまざまなプレゼントを嬉しそうに選んでいました。

運営委員の佐野さんも参加下さり、和気あいあいのとても楽しい会になりました。









こうべ子どもにこにこ会のボランティアたちが以下の研修会に参加しました。

●第3回研究会「外国にルーツを持つ子どもの発達保障 -教育環境を考えるー」●

主催:(社)日本語教育学会 テーマ領域別研究活動 多文化共生社会における日本語教育研究会

日時: 2008年1月27日(日)13:00~16:30 会場: 大阪産業大学 梅田サテライトキャンパス

参加者: 1 名

内容 (要約)

◎元「子ども」から話を聞く 司会:山田泉(法政大学)

・トゥ・ダーゥエィさん(20代女性、中国・ハルピン出身、中2の終わりに来日、大阪在住)

学習法・・意味がわからなくても、ひたすら辞書をノートに書き写す。(子どもの頃からの習慣) すぐには成果が出ないが、書いたことは記憶として残っているため、ある程度の日本語力がついた とき、その記憶が役に立った。

・ 知花セルジオ盛憲さん(20代男性、ブラジル・サンパウロ出身、中卒後来日、沖縄在住)

高校時代は、漢字がわからなくても問題ないと思い、あまり勉強しなかったが、今は、自分で会社 経営するという夢があり、漢字の読み書きの必要性を痛感し、コツコツ勉強している。

◎司会者から支援者にお願いしたいこと:

①子どもたちは、自分自身のことで精一杯で、反抗的だったり、投げやりだったりするが、辛抱強く、 見捨てないで声をかけ続けて欲しい。(声をかけられることで、自分の存在を認識できる。無視される ことは、自分の存在を否定されたようで地獄)

②彼らは、どちらかといえば「勝ち組」で、堂々とみんなの前で自分のことが話せるが、多くの場合は、あきらめたり、傷ついて、人前で話せない人たちであることを忘れないで欲しい。

◎分科会での結論:

見た目で判断し、教師が彼らはできないというレッテルを貼ってしまっている。そのため、同級生も次第にステレオタイプの見方に染まっていく。中には、レッテルを貼られてしまい、すべて受身、何でも誰かに頼ってしまう子どももいる。枠組みを少し変えることで変わってくるのではないか?ほとんどの就学前の子どもは、日本の幼稚園、保育園ではなく、ブラジル人コミュニティ内の託児施設で過ごすため、小学校入学時に日本語がわからず、身につけておくべきこともできない。就学前教育が必要。

◎教師の実践から見えたこと:

日本語指導担当教師自身が、学校文化、教師文化の中に入れず、疎外感を感じ、教科担当教師には 『遠慮』している。現状では、学校内の教師文化の中央には教科担当教師、生徒文化の中央には一般 生徒がいて、日本語指導担当教師、外国人児童生徒はそれぞれ周辺に追いやられている。

理想は、教師文化の中にはすべての教師が含まれ、生徒文化も一般生徒と外国人児童生徒、帰国子女が一体化して、学校文化を形成すること。 (報告:ボランティア 林)

●2007 年兵庫日本語ボランティアネットワーク第 2 回研修会●

H. 19 生活者としての「外国人」に対する日本語事業 日本語教育指導者養成講座第 4 日目

「外国から来た子どもへの支援と課題」

日時: 2007年12月16日(土) 13:30~16:30 会場: 兵庫県民会館 当会からの参加者: 6 名

内容 ①「外国から来た子どもへの支援と課題」 神戸市立 本山第二小学校教諭 村山 勇

- ②小学校低学年での実践例:兵庫日本語ボランティアネットワーク 長嶋昭親
- ③中学校での実践例:神戸市立神戸生田中学 JSL指導員 久永 雄介
- ④ワークショップ:日ごろのなやみについて各班に分かれての話し合い・報告
- ※実践的なセミナーで、参加ボランティアに大いに参考になった。 (報告:松井)

●「外国人児童生徒への日本語学習支援ボランティア養成講座」●

日時:2008年2月16日(土)13:30~16:30 会場:(財)兵庫県国際交流協会

主催:兵庫日本語ボランティアネットワーク・(財)兵庫県国際交流協会

テーマ:外国人の子どもたちが抱える「生きづらさ」をめぐって

当会からの参加者:5名

|内容|| ①神奈川県大和市立大和中学校 柿本隆夫教諭の実践報告

- ◎ニューマーカーの生きづらさ ◎「選択国際」での試み
- ②当事者団体「すたんどばいみー」とわたし(同校卒業生たちでつくる支援グループによる話)
- ③選択国際と「中国人としての自分」を選んだこと
- 4日本人がやれること
- ※外国人子どもたちに日本語を教える現場の先生やそこを卒業した子どもたちの報告を中心にした実践 的講座であった。(報告:松井)



> スペイン語母語支援教室

日時 毎週金15:30~17:00

場所 神戸市立本庄小学校

【活動報告】

●2008年2月15日(金)に兵庫県立大学より野津隆志教授、松田陽子教授らが母 語教室の視察に来られました。目的は、兵庫県の施策としてスタートした母語教育支 援のプログラムがどのように定着していくか、どのような問題があるか、どの ような二一ズがあるか、どういうところが連携していけばいいのか、調べたいとい



うことでした。今回の視察は、これから3年計画でチーム研究するための事前研究として、まずは現状を 理解するためです。子どもたちが学ぶ様子や、現在作成中のテキスト等をご覧になり、「うまくいっている 事例の一つですね」との嬉しいお言葉を頂きました。

母語教室に通っているコハツカロリーナさんが、神戸市立神戸高校に合格しました! 以下カロリーナさんへのインタヴューです。

Q:日本に来日したのは、いつですか。

A:2002年3月21日です。出発の時、ペルーの空港ですごく泣いたのを覚えています。

Q:母語教室では、何年勉強していますか。

A:6年です。

Q:日本の学校で勉強し始めたときの学校の印象はどのようなものですか。

A:最初学校を外から見たときは、とてもきれいだと思いました。でも自分の教室は旧校舎で 汚かったのでちょっと残念でした。最初クラスに入る時は、ものすごく緊張しました。また、先生の言 ってることが全然わからなかったです。

Q:日本の学校生活で一番大変だったこと、嬉しかったことは何ですか。

A:大変だったことも、嬉しかったこともクラブ活動です!小学校から中学校までの間、手芸部、マンガ部、 バトン部、バスケ部に所属しました。大変だったのはバスケ部の練習。嬉しかったことは、バスケ部の 区大会と区総体で優勝した時です。

Q:母語教室では、どのような勉強をしましたか。

A:ペルーの歴史や学校の教科(国語や理科)をスペイン語で教えてもらいました。ずっとスペイン語教室を 続けられたのは、良い先生との出会いがあったからだと思います。

Q:母語教室で勉強したことで良かったことはありますか。

A:会話はずっとスペイン語を使うからいいと思います。また、スペイン語カキープに役立ったと思います。 その他は、知らない知識や学校で使える知識も得ることができたことができて、学校教科とリンクして 教えてくれたのがよかったです。

Q:今後高校受験を控える後輩の皆さんへコメントを下さい。

A:がんばったら、行ける!とりあえず、授業をちゃんと受けること、宿題をちゃんとすること、それを すれば基礎力がつくので、それがまず大切だと思います。



●国際交流体験活動事業「節分」イベントに参加 ●

2008年2月2日(土)に『世界と神戸の子どもたち~国際交流体験活動 事業~』の一環として、本庄児童館の子どもたちと一緒に'節分'のイベント に参加しました。鬼に扮装して参加するようにと、あらかじめ子ども達は自分 で鬼の絵を描きました。中には、初めて鬼を知った子どももいて、絵本や アニメの鬼を真似て描いたり、工夫して色を塗ったり、ハートをつけたりして、 個性的なオリジナルのお面を作りました。イベントでは豆まきに加え様々な



アクティビティがあり、にこにこ会の子どもたちも韓国と中国のじゃんけんの掛け声を紹介し【じゃんけん ゲーム】をしました。「韓国では『カウィ、バウィ、ボ(チョキ、グー、パー)』と言い、中国では『ジャ ン、ジュン、バオ(チョキ、グー、パー)』と言います。」と紹介すると、日本人の子ども達も掛け声を すぐに覚えて、皆で楽しそうに遊んでいました。母語で楽しそうにあそんでいる子どもを見ながら、やはり 母語を使うことは大きな意味があるのだろうなぁと改めて感じました。

「KOBE国際交流フェア2008」に参加●



2008年3月16日(日)(財)神戸国際協力交流センター主催の「KO BE国際交流フェア2008」に参加しました。様々な国際交流団体が集まる このイベントは、いつもたくさんの人々が訪れ熱気にあふれています。

これを機に、多くの人々に神戸での外国人児童生徒の現状や、彼らを支える様々 な支援団体がそれぞれの取り組みをしていることを、広く 知って頂く目的で毎年参加しています。また、ボランティ ア活動に関心のある方にも、ここで活動の様子をご紹介し ています。今年も、多くのボランティアや保護者の方々の



お手伝いを頂き、ペルー料理販売で出店をし、無事すべて完売いたしました。どうも ありがとうございました。



今回は、スペイン語母語教室の活動でお世 話になっている櫻井千穂さん(大阪大学大 学院博士後期課程在籍・京都大学非常勤講 師)より母語教育に関してメッセージを頂 きました。

●言語形成期におけるインターアクションの重要性●

私がこうべ子どもにこにこ会の活動に関わらせていただくようになったのは、3年近く前のことです。 兵庫県の子ども多文化共生サポーターとして通っていた本庄小学校内で、こうべ子どもにこにこ会が運営さ れていたスペイン語の母語教室のお手伝いをするようになったのがきっかけでした。

私の専門はもともと成人に対する日本語教育でしたが、にこにこ会に通ってくる多文化環境に生きる子どもたちと出会い、大人と違って、一対一のインターアクションが子どもの言語や認知面の発達にとってどれほど重要かということを日々痛感するようになりました。現在は大学等の機関で日本語を教える傍ら、バイリンガル教育についても研究しています。

トロント大学名誉教授の中島和子先生は、学齢期の途中で渡日してきた子どもたちよりも、日本生まれの 2世児たちのほうが、継承語 (親から受け継ぐ言葉) を喪失しやすく、現地語 (現地で話されている言葉) の発達も不十分になりやすいという問題を指摘されています。私も複数の学校でこういう子どもたちの存在 を大勢目にしてきました。これは、言語形成期 (特に 0 ~ 8 ・ 9 歳の前期) に、ヴィゴツキー (1 9 6 2) の 述べる Z P D (発達の最近接領域) に働きかけるインターアクションを適切且つ十分に行っているか否かに よる部分が大変大きいと考えられます。

次に挙げるのは私と息子(4歳;日本語モノリンガル)との日常のやりとりの例です。

母:ママのお花のハンカチがなくなっちゃったの。一緒に探してくれる?

子:いいよ。ママのハンカチ、出でこ一い。

母:お花のハンカチどこですかぁ。(a)ママの一番大好きなハンカチどこですかぁ。

子: え?ちがうやろっ、ハンカチじゃないやろ!

母: え?何が???

子: (b) ママの一番大好きなカッ君(自分のこと) やろ!

この会話は、概念形成に必要なカテゴリー化(ウーシャ2003)の発達段階と、日本語の名詞修飾における 制限的修飾(a)と非制限的修飾(b)用法の習得段階を表していると思われます。このような普段のなにげないやり取りとその積み重ねが、子どもの言語力に大きな影響を及ぼすことになるのです。

多文化環境に育つ子どもたちにとって、その環境がデメリットではなく、バイリテラル (読み書きもできる バイリンガル)・バイカルチュラルになれるメリットとして働くよう、家庭・学校・地域が一体となって 見守っていきたいものです。



2007 年度は日本語教科教室のボランティアより、3 名の大学生が就職を機に活動を卒業することになりました。彼らからの言葉です。

★原田あずささん(木曜ボランティア)

はじめは外国人児童に日本語を教えることをとても難しく考えていました。しかし、私でも子どもの担当になれ、語学力や指導力より参加し続けることで役に立てるんだなと思えました。また、子ども達のことを理解していく上でもボランティア同士のコミュニケーションが大切だと感じました。回数を重ねていけばいくほどボランティアの人達とも子ども達とも打ち解け、楽しくボランティア活動を行え、とてもいい経験になったと思います。

★植田篤さん(土曜ボランティア)

にこにこ会でボランティアを1年半ほどさせていただきました。おととしの夏休みの 宿題教室から参加するようになったのですが、最初は外国人のこどもと接するとはどう いうことなのか想像もつかなかったので不安と緊張が入り混じった感覚でしたが、 やってみると「日本人のこどもと変わらんやん!」と感じたことが印象強いです。 活動では子どもたちから「植田先生」と呼ばれますが、子ども達から教えられたことは 多かったです。非常によい経験が出来ました。ありがとうございました。



★花田敦之さん(土曜ボランティア)

時間が過ぎるのはとても早いもので、大学に入学して直後こうべ子どもにこにこ会に入り、気付けばもう今月には大学を卒業することになりました。今まで僕はボリビア人、ペルー人、韓国人と、多くの子どもと接してきましたが、みんなとても素直で、忘れられない思い出がたくさんできました。子ども達の成長は著しく、僕が夏休みに長期旅行をし、一ヵ月後久々に会った時の子ども達の成長ぶりにはたびたび驚かされました。



こうべ子どもにこにこ会では単に日本語や学校の勉強の支援をするのではなく、地域との交流をはかったり、催し物を行い、子どもの居場所作りにも力を入れてきました。

その中で僕が一番心に残っている活動は、去年の初夏に行った、しあわせの村でのキャンプです。子ども 達を連れて泊まりに行くということは多くの責任を伴い、またキャンプにあたり多くのボランティアさんの 協力が必要とされましたが、このキャンプはボランティア、子ども達にとって最高の思い出となりました。

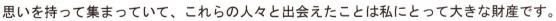
普段は勉強で必死になっている子ども達も、この日ばかりは、ここぞとばかりに騒ぎ、楽しみ、時にはボランティアに甘えてみたりと、子ども達の新たな一面を発見することができました。また、キャンプ中の様々な活動を通じて、たとえお互い異なった文化や、言葉を使っていても、そんな壁には全く動揺せずに、仲良くなっていく子ども達の姿にとても感動してしまいました。

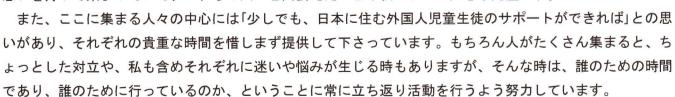
これから日本で生活をしていく子ども、一時的に日本に滞在する子ども、それぞれ異なった理由で 集まってきている子どもではありますが、僕はこうべ子どもにこにこ会を通じて子ども達と関わったことで、 彼を支援するだけではなく、僕自身多くの事を彼らから学ぶことが出来たと思います。幼少時代に異国に住 む ことは難しいことだとは思いますが、こうべ子どもにこにこ会の様々な活動を通じて子ども達をサポートし、将来彼らの記憶の中に、にこにこ会の思い出が残ってくれていると、うれしいものです。

2008 年度より事務局コーディネーターの体制も入れ替わりがあります。 以下スタッフからの挨拶です。

<終りのご挨拶>

思えば、こうべ子どもにこにこ会の活動を始めて3年半が経ちました。 最初の1年弱はボランティアとして、その後はコーディネーターとして関わらせて頂き、活動を通じて多くの貴重な経験をさせて頂きました。この会には、子ども たちや保護者、ボランティアとして活動して下さる方、スタッフや運営委員など、普段は出会えないような様々な年齢、職種、国籍の方々が、それぞれの





ある社会人のボランティアの方が、就職を控えて活動を終えられるボランティアの方へのお別れのメッセージに「社会に疲れて人間性を取り戻したかったら、にこにこ会に帰ってきて下さい」というようなものがありました。ボランティアの方々にとっても聖域のような場である活動が今後もずっと続いていきますよう、どうぞ皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。(中島永倫子)

く事務局復帰のご挨拶>

3日間陣痛が来るもののなかなか生まれず、予定日から遅れること6日、昨年2007年10月26日、 帝王切開にて無事2902gの長女を出産しました。



後でわかったことですが、首に臍の緒が2回巻き付いていました。

先が見えなくてどうなることかと思いましたが、医療技術の進んだこの時代に出産ができてよかったことを感謝するとともに、心拍が一向に弱ることのなかった娘の生命力にも感動した貴重な経験でした。

毎日があっという間に過ぎていき、もう5ヶ月。体重も7キロに増え、すくすく ぷくぷくと成長中です。

少しずつではありますが、4月から復帰しまた事務局でお世話になります。

立ち上げ時からスタッフとして会に関わってから6年が経ちました。

まだまだ新米ですが、自分自身も親になったことで、今までとはまた違った

視点で関われるのではないかと楽しみにしています。・

家族やボランティアさんをはじめ、多くの当会関係者の皆さまに助けて頂きながら、微力ではありますが、 会が続く限り精一杯頑張っていこうと思いますので、よろしくお願いします。(田中香織)



★ ボランティア募集 ★

●日本語・教科支援ボランティア

各子どもの学習能力やニーズに対応し、主に日本語(国語)・数学・英語を1対1でサポートします。

原則として日本語でサポートを行い、勉強会などに参加しながら行ないますので経験等は不問です。やる気のある方歓迎です。

●母語教室事務支援ボランティア

母語教室講師(ネイティブ講師)と話し合い、実施内容の報告書の作成など、事務的な作業に関っていただきます。

●ボランティアオリエンテーションに参加してみませんか?

毎月第2・4木曜または第1・3土曜 15:30~「予約制のオリエンテーション・登録会」を開催しています。お気軽にお問い合わせください。

会員になって私たちの活動を支えてください。

◆正会員【年会費 5000円】 個人

総会での議決権がある会員です。

◆◆サポーター会員【年会費 1 □ 1,000円】 個人1 □以上・法人1 0 □以上 経済的な支援を頂<賛助会員です。

郵便振替 0090-4-251298 こうベ子どもにこにこ会

「こうべ子どもにこにこ会ニュース第4号」をお届けいたします。

このニュースは3ヶ月に1回、みなさまに活動のご報告をさせていただくものです。年度末を迎え、長年活動してくれた若い大学生ボランティアたちが巣立っていきました。本号は、彼らに感謝の気持ちを贈る号にもなりました。編集面でも、今後いっそう頑張りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。(松井)